

モーターローラ特徴

1 モータ

インピーダンスプロテクト方式モータ採用により、連続・間欠・正逆運転等が可能。

インピーダンスプロテクトモータの定義

JIS規格には有りませんが、米国のUL規格（UL73）に「インピーダンス保護型モータ」として規程されているもので要約しますと、
拘束状態を15日間続けた時

最初の72時間中に165℃（外気温24℃の時）を越えない事。

巻線が切れたり、フレームに短絡しない事。

絶縁が過度に劣化しない事。

となっており焼損につきましては、かなり厳しい条件付けがされております。
これらの厳しい条件を満足したモータを弊社では標準モータとして採用しており、搬送条件の変更等があった場合でも、そのままご使用が可能のように考慮しております。

インピーダンス・プロテクトモータ採用機種

(A) $\phi 57 \cdot \phi 60.5$ の三相200V級（標準仕様）

※220V/50Hz 60Hz、230V/60Hzは採用していません。

(B) $\phi 57 \cdot \phi 60.5$ の单相100V級

※115V/50Hz 60Hzは採用していません。

(C) $\phi 57 \cdot \phi 60.5$ の三相400V級

※460V/60Hzは採用していません。

2 アク्यूム定義

一般的にアク्यूムとは滞留させることを示します。

しかし、弊社でのアク्यूムの定義としては、拘束を意味します。

“アク्यूム＝モーターローラは回転しない” ことにはなりません。

※搬送物をストッパー等で停止させている状態でモーターローラを回転（スリップ）させると、パイプ表面及び搬送物底面に傷がつく可能性がありますのでご注意ください。

3 ギヤ

低速タイプにおける高トルクにも十分対応できるギヤ強度を持っています。

但しモータ出力におけるギヤ強度ですので、正常な使用用途のみ想定しております。

正常での使用以外とは下記等になります。

- ・ブレーキ等で急激にローラを拘束して内部に衝撃が加わる場合。
- ・正逆運転等、反復作用が起こり、内部に繰り返し荷重・衝撃が加わった場合。
- ・ストッパー等で反作用が起こり、内部に繰り返し荷重・衝撃が加わった場合。
- ・前後のラインで速度差がある場合。

4 RoHS対応

全機種対応しております。